



「はむらの学校教育」とウェルビーイングの向上

◆ 「はむらの学校教育」は、学校・教師・子供のウェルビーイングの向上を図るブランドデザイン（全体構想）です。

◆ その基盤を成すのは、**【自尊感情の醸成】**と**【望ましい習慣の形成】**です。

子供たちは様々な学びや体験を通して、自分は「やればできる」、「伸びている」、「役立っている」という自覚とともに**自尊感情**を高めていきます。ちなみに、他に「役立つ」行いは、相手の利益や幸福を重んじる、いわゆる**利他性**に基づきます。

一方、**望ましい習慣**は、よりよい社会の形成者としての基盤となり、生涯にわたり子供たちのウェルビーイングの向上を支えます。



◆ **【言葉の力】**を中核とした学校づくりを進める中で、**【知・徳・体】**の調和のとれた力の育成、**【伝統・文化理解教育】**の推進、**【特別支援教育の充実】**を図ることは、本市の**【目指す学校像・教師像・子供像】**の実現に迫るとともに、学校・教師・子供のウェルビーイングを向上させることとなります。

◆ 今後は、ウェルビーイングのより一層の向上を目指し、第109号で述べた＜教育を通じて向上させる要素＞を踏まえ、＜関連する子供たちの主観的な認識＞が高まるよう、「はむらの学校教育」に基づく＜教育活動の充実を図る＞ことが重要です。

＜教育を通じて向上させる要素＞

- 幸福感
- 学校や地域でのつながり
- 協働性
- 利他性
- 多様性への理解
- サポートを受けられる環境
- 社会貢献意識
- 自己肯定感
- 自己実現
- 心身の健康
- 安全・安心な環境 など

＜関連する子供たちの主観的な認識＞

- 自分にはよいところがあると思う
- 自分の幸福感
- 将来の夢や目標をもっている
- 学級をよくするために互いの意見の良さを生かして解決方法を決める
- 友人関係の満足度
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
- 授業の内容がよく分かる
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい
- 先生は自分のいいところを認めてくれる
- 勉強は好きと思う
- 人が困っているときは進んで助けている
- 困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる など